

いしづち

2024.9

SEPTEMBER

No.160



公益社団法人 愛媛県建築士会

Ehime Society of Architects & Building Engineers

<http://www.ehime-shikai.com>



会長就任挨拶
東温の家
自分磨きへの道しるべ デジタル時代にアナログ必要？

CONTENTS

1	会長就任挨拶	会長 尾藤 淳一……①
2	東温の家	道上壯/VUA……②
3	自分磨きへの道しるべ デジタル時代にアナログ必要?	松山支部 尾崎 光高……④
4	世界建築紀行 ダ・ヴィンチが見たミラノとヴェネチア (前編)	西予支部 松山 清……⑥
5	委員会報告	晴天のもと! 建築士会・建築士事務所協会合同親睦ゴルフコンペ開催 総務・企画委員会 委員長 井上 竜治……⑩ 愛媛の登録有形文化財 第10回 氷見住吉屋 (森家住宅主屋 他4件) 文化財・まちづくり委員会 副委員長 曾我部 準……⑫ CLTを利用したドーム・ハウス見学会 教育・事業委員会 委員 水口喜久美……⑭ 青年・女性建築士の集い 中四国ブロック広島大会 松山支部 近藤 岳志……⑮ 令和6年度青年会員総会、及び女性会員総会報告 青年会員総会 報告 青年委員会 副委員長 遠藤 彰騎……⑯ 女性会員総会 報告 女性委員会 委員長 永井 由起……⑯ 第33回全国女性建築士連絡協議会 (東京) 未来へつなぐ「まち・ひと・建築」～インクルーシブな社会を目指して～ 女性委員会 委員長 永井 由起……⑰ 新たな気づきの2日間 西予支部 下元 美恵……⑱ 初めて参加して 四国中央支部 加地 彩子……⑱ 全建女にzoomで参加 松山支部 大塚美由紀……⑱
6	支部報告 「建築士の日の行事」報告	西予支部 支部長 山内 真一……⑲
7	けんちくの輪 建築で繋ぐ道	西予支部 水野 正一……⑳
8	お知らせ 令和6年度 通常総会及び第3回理事会概要報告	事務局……㉑

※尚、表紙及び本誌記事の無断転載を禁じます。



水彩画サイズ/F6

題:「赤灯台」

[表紙画について]

唐子浜の「からこ (唐子) は、藤堂高虎が今治城築城の為、唐子山にある国府城を壊して山頂に松を植えたところ、瀬戸物の絵でよく見かける唐風の子供の頭に似ていたところ由来している。

唐子浜の沖には、赤灯台が設置されており、唐子浜のシンボルとなっている。元は来島海峡の西水道入口にあった瀬灯標 (赤灯台) で1902年 (明治35年) 4月に日本で5番目の灯台として建設された。

wikipediaより。

表紙作者 上田 勇一 プロフィール

- 1974 東京生まれ
 - 1980 小学校から高校まで松山在住
 - 1990 東日本建築教育研究会製図コンクールにて奨励賞
 - 1991 愛媛県内高校生建築競技設計にて会長賞 (愛媛県建築士事務所協会主催)
 - 1993 画家・高橋勉氏に師事。約10年間、古典絵画技法全般を学ぶ
 - 1996 日本工業大学建築学科 卒業
 - 1998 画家として活動開始する。東京や埼玉にて毎年個展開催
 - 2002 日本ファンタジーノベル賞受賞作者「世界の果の庭」 (新潮社) の装丁担当
 - 2003 美術家の登竜門である昭和会にて優秀賞 (東京/日動画廊)
 - 2010 愛媛県美術館に作品「ドライフラワー」収蔵される
 - 2015~17 愛媛新聞 冊子アクリート表紙画連載 絵画教室やオリジナルブランド額工房「柳リチエルカ」を設立
 - 2017 「えひめの塗り絵」を出版
- その他、出版装丁画や受賞多数、全国にて個展中心に活動。
現在、現代日本美術会 会員/審査員

会長就任挨拶

愛媛県建築士会 会長 尾藤 淳一



日頃は、公益社団法人愛媛県建築士会の活動にご協力いただいていることに深く感謝申し上げます。この度、6月17日の通常総会において役員改選があり、私は前期に引き続き会長を務めることになりました。その他の役員は、支部長交代や青年・女性委員長の交代などがありましたので、理事・監事の顔ぶれに入れ替わりがありました（詳細は、総会資料をご確認ください）。これから新体制で運営をしてまいりますので、引き続きご協力をお願い致します。

さて、只今この原稿を書いている7月では、一段と円安が進み、物価上昇の先行きが見えない状況ですが、輸出企業中心に大手企業の業績は好調で税収は伸びているようです。一方、人手不足が常態化し、新卒者のみならず中途採用も難しくなっております。資金力のない中小・零細企業には若手人材が就職しないので、職員・技術者の高齢化が問題になり、事業存続が危ぶまれる事態となっています。しかし国政レベルでは、政治資金規正法があいまいな形でお茶を濁して終結してしまい、今や9月の自民党総裁選・立憲民主党代表選に関心が向いており、その後アメリカ合衆国の大統領選があるので、日本の国内情勢の改善に向けた動きには腰が入りそうもありません。

ただ1月の能登半島地震や4月には愛媛でも大きな地震がありました。今後来ると言われている南海トラフ大地震が来る前にしなくてはならないことは山積みです。愛媛県建築士会においては、災害対策委員会の設置について議論を進めなくてはなりませんし、応急危険度判定士の災害時招集方法について詰めていかななくてはなりません。またブロック単位で連携が必要なことですが、文化財被災建物の保護修復についても、体制を確立することが必要です。いろいろな事態が想定される中で、全てに対応したものが最初からできるとは思っていないので、まずは始めてみてその都度修正しながら、最善の方法を探っていきたいと考えています。

さらに、愛媛県建築士会の組織強化も喫緊の課題です。会員の年齢分布を見てみると極端に若年層が少なくなっています。この要因の一つには、資格試験の合格者が減っていることがあります。合格率はあまり変わらない。つまりそれは、受験者が減っていることを意味します。少子化・人口減少が進む中、これをあげていくのは至難の業です。解決策としては、合格者のみならず未入会の資格者に入会して頂くより他手段がありません。会員皆さまの人脈を通じて勧誘をすることは引き続きお願いしたいのですが、抜本的に改善するためには建築士会に入会するメリットを大きくするしかありません。

学術的・技術的な学ぶ場を求める人は、現在でも多くの人たちが入会して頂いていると思います。建築士会に足りないところは、仕事に直結することや社会的認知度を上げることではないかと思えます。県工事の入札加点対象にCPD単位を加えて頂いたことで、施工会社社員の方の入会が増えました。しかし建築士会では、専攻建築士・既存建物状況調査技術者・ヘリテージマネージャーなど講習会を開き、学ぶ場を設けていますが、これを実務に生かす場や評価して頂く場が少ないのが現状です。連合会やブロックでもこれらの課題について、議論してまいりましたが、障壁が高くなかなか打開できていませんが、諦めずに続けていきたいと思っています。

このところ中古住宅の取引に状況調査を行わない理由の提出が必要になるとか、歴史的建物調査が受注できたとか少しずつですが、良い方向に動いているように思えます。この流れが途切れないよう頑張りたいと考えています。

話は変わりますが、6月に開かれた中国四国ブロック大会青年・女性の集いの地域実践活動報告会で、昨年に続き、愛媛県が最優秀賞を頂いたそうです。これはひとえに青年委員会・女性員会が、日頃熱心に活動して頂いている成果だと思えます。心から祝福を申し上げるとともに来る10月の全国大会鹿児島大会でも優秀な成績を収めることが出来るよう皆さんで盛り上げていきたいと思っています。

最後になりますが、皆様お一人おひとりの力で愛媛県建築士会が発展できるようお願いを申し上げ、私の挨拶にしたいと思います。宜しく願い申し上げます。



TI.House Facade

SI.Houseの竣工から5ヶ月後、一枚の竣工写真から繋がって実現した建築はTI.House「東温の家」だ。その当時/2009.08-2011.05/僕はこんなことを考えていた。

田園の伸びやかさ。共通する平行線。周辺環境のあり方を反復することと、全体と部分が、どこにいても繋がって感じられること。これらの2つが、この建築の大きな原則となっている。

北側が接道した逆L字型の敷地形状。クライアントの要望は、実家と墓地に挟まれた、狭くて日当たりの良くない幅5m奥行き30mの部分が住宅エリア。西側に田んぼを臨む、広くて日当たりの良い幅22m奥行き12mの部分が庭エリア。車の通り抜けと、敷地形状と、クライアントの要望とを一気に解決する手段として、この伸びやかな曲線の外壁が生まれてきた。

敷地形状に影響を受けた、ロングブーツのような不整形な建物の外形。その中に切り分けられた内部スペース。ほとんどの部屋が、台形の平面となる。それでも、並行な壁が必ず2面存在することによって、スペース全体との繋がりと、方位とを、感じられるようになっている。そして、スペースが線形に繋がることによって、直線で26mという奥行きの内部空間が生まれてきた。

何か新しい田園の風景と、何か新しいインテリアの風景が、描けたのではないかと思っている。そして、きっとそこで、新しい住まい方と、新しい家族のあり方が、生まれてくることを願っている。



TI.House LDK

この住宅を考え始めた時、僕は自由を感じていた。建築を考える方法論から、自由であることを感じていた。何か一つの考え方で、建築をつくり続ける方法がある。それに対して、その都度、色々なことを考えながら建築をつくる方法もある。僕は、得意な必殺技で建築を片付けてしまうことよりも、未知との遭遇により、自分でも想像もできなかった新しい建築に辿りつくことに魅力を感じていた。

それは、HK.Houseからずっと考え続けてきた、建築への向き合い方に対する一つの手応でもあった。そして、僕がこの住宅の設計者として選ばれたのは、恐れを知らぬ新しきモノへの探究者だったからでもある。

僕に依頼が来る前に、クライアントは、工務店やハウスメーカーや設計事務所に案を出してもらっていた。それらは、とても常識的なもので、条件の良いところに住宅を計画し、そうでない所に外構を計画するというものだった。後々のクレームを回避するという意味では、それはとても妥当な判断と言えるだろう。

僕は「条件の悪い所に工夫して住宅を建てる」「条件の良いところに大切な畑を残す」クライアントの言葉を額面通りに受け止めて案を考えた。実家と墓地に挟まれた5mの隙間に、僕は住宅を挿入させた。びっくりするほど明るくて広々としたところを、畑として開放した。

「子供部屋も寝室もベッドさえ置ければ狭くてよい」2.6畳の子供部屋や4.9畳の寝室を、僕は何の躊躇もなく提案した。その代わりに、21.3畳の大空間としてLDKを計画した。そんな大胆さや思い切りの良さも、ひょっとしたらクライアントの気質に合っていたのかもしれない。

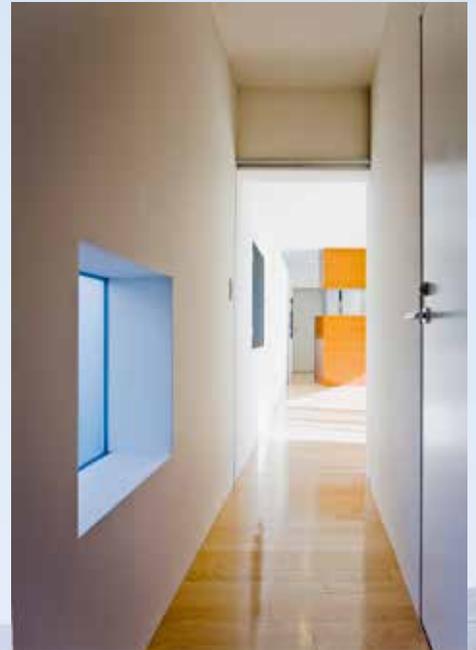
田園の伸びやかさをこの建築にも再現したい。小さな住宅だからこそ大きな空間をつくりたい。30.9坪の住宅に26mの内部空間を登場させた。竣工後、子供たち2人が駆けっこをして遊ぶなんて、想像もしていなかった。30.9坪の住宅の敷地として、127.8坪の敷地を使い切れるなんて思ってもみなかった。

プレゼン案を考えている時も、実施設計を描いている時も、工事中も、竣工後も、毎回この住宅は僕の想像を超えた姿を見せてくれた。それまでの住宅は、どこかちょっと真面目で、面白味のない優等生だったような気がする。ところがこの建築は、リミッターを外した逆輸入車のように、レッドゾーンまでエンジンが回り、フラットスポットができるくらいにガツンとブレーキが効き、右に左に軽やかに旋回できるハンドリングだった。そう、自由自在に建築というサーキットを疾走できるワークスマシンのようだったのだ。

思い出してみると、この住宅は竣工間際に少しだけ進路変更を余儀なくされた部分がある。東日本大震災の影響で、決めておいた仕上材や設備機器が手に入らなくなり、手に入るものだけで竣工を目指さなければならなくなったことだ。ベストなものが選べないもどかしさと、いや、ひょっとしたらオーバー・ザ・ベストを見つけられるのではという、不安と期待が入り混じったフィニッシュを迎えた住宅でもある。



TI.House West



TI.House Corridor

結果として、当初考えていた住宅と遜色のない仕上がりで竣工を迎え、今年で13年が経つ。いつか将来、クライアント家族が昔を振り返った時に、この住宅での楽しい生活の思い出が語られることを願っている。竣工後の僕にできることは、ほとんどない。賽は投げられて、どんな目が出るかは、クライアントの振り方次第、住宅の転がり具合なのだ。

住宅設計を通じて、僕は様々なことを学び、色々な成長を遂げてきた。残念ながら、それらの痕跡は図面と写真と僕の頭の中にしかない。今にして思えば、もっと建築に関わる記録を残しておけば良かったと思っている。興味のある方は是非こちらをご覧ください。この突拍子もないコラムの理解が、少しは進むかもしれない。

Instagram : versunearc



デジタル時代にアナログ必要？

松山支部 尾崎 光高

気が付けばもうすぐ69才を迎える歳になってしまいました。これからも出来るだけ長く設計の仕事を頑張っていきたいと思っておりますが、先の事は分かりません。今まで全く建築士会の行事等に携わっていない中、少し前から自分が会得した建築パースについてのノウハウを次世代に繋げて行けたらと強く考えるようになりました。これからの皆さんの創作活動に少しでもお役に立てれば幸いです。

私が建築パース（以下、パース）を始めたきっかけは、松山工業高校建築科の実習助手時代に当時の先生方の中でパースの講習を受けてみようとのことで、当時、松山市役所建築指導課に勤めておられた杉野氏をお迎えして指導して頂いたのが始まりでした。その後、設計事務所時代から本格的にパース制作を請け負っていた時期に研鑽を重ね、現在に至っております。

今回はなぜパース制作が必要なのか、どういった効果があるのか等、理解して頂いた方が取り組み易いかと思ひまして要点をまとめてみました。



▲F・L・ライトの代表作 落水荘（松工時代に制作したものを40数年ぶりに手直し）2点透視図（不透明水彩）目線は滝から見上げたイメージ

建築パースの役割とは？

何故パースが必要か、設計に於いての自分のイメージ、コンセプトを施主に解り易く伝える為？ 施主との認識違いによる減価を防ぐ為（言った言わないを防ぐ為）？ 等、様々な理由がありますが、一番は、いくら最高のプランが出来たとしても施主が理解出来ているか、価値観にズレは無いか確認していかないと契約に至りません。如何に素晴らしい案でも理解して気に入って頂かないと、単に絵に描いた餅で終わってしまいます。この建物を建てたい、見てみたいと思って頂くように持っていかないと業務に結び付けませんし、生活出来なくなります。よって、今後もパースの活用は不可欠だと思います。

現代はCGの発達により、静止画、動画ともかなりリアルな表現が可能ですが、ソフト代、入力期間、人件費がどれだけ掛かるかによって、メリット、デメリットがあるかと思ひます。その点手書きパースは短時間で描けますし、比較的安価というメリットがあります。建物の

ボリューム、バランス、空間の把握は模型で良いかと思ひますが、建物の性格・表情、雰囲気、重厚感、高級感等は経験上パースによらないと施主に伝えにくいと感じます。建物も生きていますので、施主の五感に響くようにアピールしていくのが大事かと考えております。

建築パース製作に必要なものとは？

パースを描く為に必要な素養としては、デッサン力・構成力・発想力（想像力）・色彩感覚・美的感覚・バランス感覚（立体の把握）・感受性等を養うのが良いかと思ひます。経験上、美術鑑賞・音楽鑑賞・現存建物の見学などにより会得出来るかと思ひます。ある時から、美術館で見た西洋絵画の色使いが頭に焼き付いたのか、複雑な色が出せるようになりました。例えば、外壁色を調合するのに5～6色を使う場合があります。当初は一色作るのに30分位かかったこともありましたが、手描きの場合には素材の色を出すのに苦労しますが、慣れで出来るよう

になります。パースの場合は各素材感を忠実に再現することが大事です。CG作成の場合にも色合いを調整する時に役立つと思います。全てに於いて完璧でなくても基本は知っておくべきです。これらは時間を掛けて行けば、会得出来ます。苦手意識を持たずに、進んでいくことが大事です。自分のアイデアを最初に表現する手段として大いに役立ってきます。世界的な建築家も始まりは、閃きを簡単なスケッチから発展させて素晴らしい作品を創出しています。

感受性については生まれ持って強い方と弱い方がおられると思いますが、建築を創造するのにも非常に大事な要素です。TVなどで有名な建築家の特集を見ていると、何を感じ、何を訴求したいのかが良く理解出来ます。パース製作に於いては、その何を訴求したいのかを把握して依頼された建築家、設計士の目的を盛り込み契約に繋げる為の補助的な要素を担っています。感受性は歳と共に鈍くなるのではなく、老いる程、鋭くしていく努力も必要かと私自身も感じて、暇があれば美術館に行き何百年も前の絵画に感動し、クラシック、ポピュラーに限らず色々な音楽に出会い感動することにより、トータル的な感性を磨く努力をしております。時代に取り残されないように、常に感性を磨く必要があると考えます。それと一番肝心なのは、ある程度、建物の構造(木造、2×4、S造、RC造)、納まりも理解しておかないと正確なパースを表現する事が出来ません。又、設計図を読む力も必要です。計画図、設計図を基に描くわけですから、どんな

形になるか掴めないといけません。

パースの積極的な活用の勧め

なるべく多くの設計士・インテリアコーディネーター・CGオペレーター・現場関係者・営業職の方にも手描きパースを実践して頂ければと願っております。素人である施主と打ち合わせする時に、口で10回説明するよりその場でスケッチを描いて見せる方が確実に理解してもらえます。「百聞は一見に如かず」です。その方がカッコイイですね、この人に任せようとなるかと。インテリアコーディネーターの方も室内の配色・家具・照明・カーテンなどの総合プロデュースに大いに役立ちます。営業の方も商談の折、さらさらとスケッチが描ければ、好感度、期待感が増すと思います。現場に於いても、設計図が分かりにくい場合、職人さんに納まり等指示するのにスケッチを描いて説明すると理解度が増すと思います。作り直しを防げます。

設計士のみならず、それぞれの方が苦勞して考えた案を気に入って頂き、社会貢献に繋がる優れた作品を提供していく為にも必要不可欠かと思えます。契約率UPにも繋がります。大変大まかな内容ではありましたが、次回からは初心者にも分かり易いように各技法(参考として4種類の例を添付致しました)などのご紹介をさせていただきます。

尚、建築士会HPよりカラー版の閲覧が出来ますので、是非ご覧下さい宜しくお願い致します。



▲ 1点透視図(ファンズ・ワース邸) 不透明水彩



▲ 2点透視図(和風住宅) ロットリングペン



▲ 3点透視図(内子座) 写真(見上げたイメージ)



▲ 鳥瞰図(某橋梁計画案) 不透明水彩(ドローンで撮影したイメージ)

ダ・ヴィンチが見たミラノと ヴェネチア (前編)

西予支部 松山 清

1 “最後の晚餐”に会いに行く



▲ダ・ヴィンチもコンペ参画の“ドゥオーモ”

旅に出る理由は色々あるが、基本的には「そこへ行くことだ」と思うようになってきた。それ以上の言い訳はいらない。“最後の晚餐”は子供の頃からよく目にしていたし、Windowsの壁紙でも長らく使っていた。サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会修道院の食堂にあるその壁画をこの目で見るのは長年の夢であり、その教会が建っている街並みやダ・ヴィンチが見た景色と同じ景色を見て、同じ空間に立ってみたかった。

ミラノまでは貯めてきたANAマイルで無料航空券をゲット、空港利用税と燃油サーチャージは必要だが、交通費は気にせずに済む。イタリアの物価は他の欧米諸国よりは少し安くて助かった。

2 フランクフルト経由でミラノへ

2024年1月29日、ANAホテルで開かれた建築士会理事会終了後、松山空港から羽田へ向かった。その夜はじゃらんポイントで空港内の羽田エクセル東急に宿泊、翌日の出発はとても楽だった。就寝前にはミラノとヴェネチアをどう巡るか検討、地理的なイメージトレーニングで準備をした。

1月30日、朝は午前6時半に起床しシャワーを浴び、Wifiルーターを受け取って、ミラノ・マルペンサ空港までの搭乗手続きをする。新しい第2ターミナル国際線から搭乗するのは今回が2回目。搭乗手続きではスーツケースをセルフで機械カウンターに預けるのが一般化しつつあり、自分はそれに十分に慣れていない。ANA Diamond Memberは優先手続きがあるので、旧方式の手渡しのみで済むが、今後は機械を使



▲修道院食堂の“最後の晚餐”鑑賞

うのが必須となりそうだ。

搭乗待合室のラウンジが新しくオープンし、食事が提供されていた。前回はアルコールとつまみのみはかなり貧素なスイートラウンジだったが、今回は朝食に丁度良かった。鮭イクラ丼とシャンパンを頂きながら、スマホでミラノからヴェネチアまでの列車の予約ができて一安心。



▲羽田T2国際線ロビー

現地日本語ツアーは休みだったので、ヴェネチアでは水上バスやゴンドラ・徒歩など頑張る自力で回ることを決意。明日までにサンマルコ寺院の入場券もネット予約しておかねばならない。

フランクフルトまではロシア上空を飛ばないため東京湾から太平洋へ出て北へ飛行し、アリューシャン列島を横切ってベーリング海から北極海をアメリカ大陸に沿って東へ飛んだ。ロシア上空を迂回する形だが、14時間半もかかるというのはとても驚き。機内食は牛フィレスステーキで、欧米路線が一番機内食が旨い。いろいろと注文して美味しくいただき、夕食分まで機内で食べたようなものだった。

予定では30日はマルペッサ空港からリムジンバス・ブルマンに乗ってミラノ中央駅へ行く。公共交通での移動はいつも不安を感じるが、これは何とかかなりそう。31日はこの旅の目的、“最後の晚餐”鑑賞をしてミラノ大聖堂“ドゥオーモ”へ。2月1日は朝、列車でヴェネチアへ移動。クレモナにも行きかけたが今回はパス。ANAミラノ直行便が就航するので、その時にクレモナを訪ねよう。兎に角、ミラノも時間を有効的に観光する必要がある。見残した場合は最終日に回る時間も取れるはず。飛行機からは楽しみにしていたオーロ



▲ミラノ中央駅

ラは見えなかったが、ミラノの地下鉄網やガイドブックを確認していると、ミラノのルネッサンス建築はどんなだろうか、など期待が膨らんできた。フランクフルト空港では簡単な入国審査の質問があって、日本のパスポートの信用のお陰なのかスムーズにEUへ入れた。

フランクフルト空港では乗継時間が4時間程あり、定刻出発だったのでミラノマルペッサ空港には予定通り到着。手荷物をピックアップして4番出口を出た所のミラノ中央駅行きブルマン乗り場へ向かった。順調に先発のバスに乗れ、切符をバスの乗車口で売っていた係員も少し日本語が話せて、緊張感がほぐれた。所要時間50分と聞いていたが夜なので少しは早く着くかもと期待していたのに、それは外れて午後11時過ぎにミラノ中央駅に到着。そこにはトランクに積み込んだスーツケースを勝手に取り出してチップをせびる輩がいるという情報を事前にネットで見かけたが、この日はそんな人影はなくてホッとした。そのかわりタクシーの客引きが多かった。

ホテル・ビストロはブルマン降り場と中央駅を挟んで反対側広場にあるので、駅ホーム下の構内通路を抜けると、目の前にホテルを発見、広場を大回りしてたどり着いたのだが、駅に近いのは遅着きの今回は非常に安心で助かった。ホテルスタッフも感じが良く、気持ちよく会話ができた。少しだけ日本語がわかるのが面白い。

ホテルにチェックインをした際に、朝食は午前7時からだと言われたが、よく考えると予約の際に朝食を注文していたことを思い出した。代金はホテルに直接支払えということで、ここら辺りが予約システムのややこしく感じるどころだ。損得ではなくて、全部の予約システムが統一してもらいたい。結局、チェックアウト時に朝食代を支払ったのだが。

③ サンタ・マリア・デッレ・グラツィエ教会



▲教会の大聖堂・正面入口



▲トラム



▲修道院食堂入口

1月31日、念願の「最後の晚餐」を見に行く。これを鑑賞するためにミラノまでやってきたのだ。日本語ツアーがこの時期はないので英語ガイドツアーに申し込んだ。そうしないと入場チケットが取れなかったからでもあった。最後の晚餐の後はミラノ観光ウォーキングツアーがついているため、主だった所の案内も聞けることを期待していた。だから、集合時間の9時半には絶対に遅れるわけにはいかない。朝食は午前7時からホテルで摂った。コンチネンタルでクロワッサンなど簡単に済ます。連泊なのに荷物を片づけるのにいつものことだが手間取る。夕べ遅く着き、寝るのも午前1時を回っていたので、荷物も広げっ放しだった。そのため出発が午前8時過ぎとなる。翌日ヴェネチアへ午前8時15分発の電車で行くため、ミラノ中央駅でホームと列車を確認しておきたかった。駅のホームに着いた時は、明日乗車予定のヴェネチア行きが丁度出発する時刻だった。

イタリアの場合、改札方式が欧州形式から日本の形式に近くなってきたようだ。性善説か性悪説かの違いのようなもので、日本の場合は切符をもっていない者は列車に乗ってはいけない、という前提である。欧州では列車に乗っている者はみんな切符を持っている、ことになっているので、改札口も無く乗り降り自由自在。本当にそうなのだろうか、とも思ってしまうが、そこが自分の心の寂しさなのかもしれない。しかしミラノ中央駅では切符が無いと改札があるためホームには行けなくなっていたのだ。

列車を確認した後、わかりにくいとも言われるミラノ地下鉄の自動券売機に挑戦。これはパリでも悩まされたので、少しは経験値がある。何度も切符を買うのが面倒なので1日券を購入。行き先を確認してミラノの中心、ドゥオーモ方面へと向かう。地下鉄の行き先表示の路線図はいつも心して見るのだが、最近世界共通の表示方式の基本があるということに気づき慣れてきた。それが事実とすればどこの国に行っても地下鉄は恐れる必要が無い。スリなど犯罪も多いので、それに対する緊張感はあるが、あまりにも恐れすぎてもいけない。

ドゥオーモ駅で地下鉄を乗り換えて別の路線でサンタマリア・デッレ・グラツィエ教会方面へ行く。2駅目で降りて地上に出ると、何が何だかさっぱりどこにいるのか不明。冷静になって時計付属の方位磁石で確認して現在位置を地図上で特定した。

道路は縦横ばかりでなく斜めにも走っていてわかりづらい。こっちに違いないという方向へ10分程歩いてみたら、それが間違っなくて教会のバシリカの屋



根が見えてきた。写真でも見たことがあるので、ここが壁画のある教会だと確信し一回り。反対側に正面入り口があり、しばらくの間、広場からその周囲と教会を眺めた。もっと高い塀に囲まれたような所かとイメージしていたが、街の真ん中に大聖堂がドーンとある。広場は正面のみで70メートル四方くらいの小じんまりとした空間だ。そこから道路も延びているし、狭い道をトラムも走っていた。そんな大聖堂の横に修道院が附属物という雰囲気 で建っていた。あの夢にまで見た“最後の晚餐”は、厳重に守られて手の届かないような所にあるのではなく、街中の人通りや交通が多い一角に建つ大聖堂のお隣にひっそりとあった修道院食堂の壁に描かれたのである。今はしっかりと管理され近づくのは事前エントリーを果たした人が15分のみ許される仕組みだった。チケットには入場時刻と名前が印字されていて、パスポートで名前を確認して渡された。ガイドからはワイヤレスイヤホンが配られた。



▲キリストの十字架刑



▲食堂の外壁

たったの15分のために世界中から観光客が集まっているのだった。20名程が修道院の食堂へ一度に入ることができ、15分で入れ替え。写真もフラッシュをたかなければ自由に撮れた。至福のひとつ。時間はあっという間に飛び去って行く。その食堂にはいくつかの長椅子が置かれているだけの広間の空間で少し薄暗い。感度の良いカメラでないと上手く“最後の晚餐”を写せない。念願の場所にやって来たという興奮と感動、ここに名画が描かれていたという事実、レオナルド・ダ・ビンチはここで何百年も賞賛される作品を残したなどなど次々に心に思い浮んできて、満足感と達成感、充実感で胸は高鳴る。世界中の人が一度は見てみたい、と思う程のテンペラ画が目前にある。反対側にはモルトンファノのフレスコ画“キリストの十字架刑”が対峙して描かれていて、空間に威厳をもたらせていた。



▲大聖堂礼拝所



▲バシリカ天井

その後一旦外部へ出て大聖堂へ入り、さらに中庭などの説明を聞いて市内ウォーキングツアーへと出発した。20名以上いた参加者は最後の晚餐が終わると半分以上が音声ガイドを返却していなくなり、市内ツアーは10名程だった。最後の晚餐の入場券を個人的にエントリーするのは難しいため、ツアーに申し込んでそれだけ見ることを目的にしていたのだろう。しかし、ミラノが初めての自分にとってはスフォルツァ城やスカラ座、ガレリアなどに連れていってもらったのでありがたかった。英語の解説を全て理解することはできなかったが、何を言っているのかだいたいは察しが付いて自分なりに理解し、ツアーに参加した価値があった。



▲中庭と大聖堂ドーム

4 ミラノ市内ウォーキングツアーとドゥオーモ



▲スフォルツァ城



▲内部のセンター通路

ツアーは「最後の晚餐」からスフォルツァ城と旧市街西部を散策し、ダンテ通りからスカラ座へ向かった。そこからミラノファッションの聖地ガレリアを抜けドゥオーモ前広場でお昼過ぎ解散となった。この周辺はルネサンス時代からの建物が並ぶ通りで、ダ・ヴィンチもここを歩いたに違いない。ドゥオーモ屋上テラスでドゥオーモ広場を見ながら食べられるカフェがある、という誤認識をしていたためそこで食事をと考えた。テラスへのエレベーターはドゥオーモの左奥にあり、さらにチケット売場も左右にあるとガイドブックに書いてあったので、左サイドの奥後方まで歩いて行ってみた。ところが今はチケット売場は廃止され、E.Vの入口係員がいるのみ。チケットはウェブの公式サイトで購入する仕組みに変更されていた。カード決済を済ませるとメールでQRコードが送られてくるのだが、これがめんどくさい。オプションなど不要な情報が沢山表示されるので、中々決済の画面までいかない。エジンバラ城でも現金では買えなかったが、管理者側はこの仕組みにより簡素化されているが、観光客はスマホを使いこなす人でないと困惑してしまい、何十倍も手間がかかる。1分で買えるチケットを手に入れるのにスマホでは30分くらいかかってしまった。それも「経験」



▲ ダンテ通り



▲ スカラ広場とスカラ座



▲ ガレリア



▲ ブティックが並ぶ内部

と何回もチャレンジして、やり方は理解できないけれど、チケットは購入する事が出来た。私はルーターを持っていたが、スマホを持っていない人、Wifiが使えない環境の人はどうしたらよいのか。

入口ではセキュリティ検査があって、係員がリュックの中にドローンが入ってないかなど聞いてきたが、何か形式の検査っぽい。みんな通過させているようでEVですぐにドゥオーモ屋上へ上れた。そこは単に屋根の上、というだけで、カフェなどありはしない。テラスというのは屋根の上の広い空間のことだった。大聖堂の屋根の上なので平たい部分はないが、歩くにはあまり問題ない。狭い所を通ることもあっても渋滞など無くみんな思い思いに屋根の上の景色を楽しんでいた。屋根は薄い石で葺かれていて勾配屋根も歩行に問題ない。そして何よりも目立つのが沢山の塔とフライングバットレスの数々。音声ガイドではこのバットレスのことを屋根の上の水を流すための仕組みだと解説していたが、これは大聖堂屋根および上部の壁面が倒れないための構造的重要な役割があるということの説明が欲しかった。バットレスがその意匠性も強調され美しく機能的になったのがフライングバットレスだ。沢山あるゴシック様式の塔の頂部には像が置かれていて、これもミラノの経済力の象徴なのだろう。上りは

EVで難なく屋上まで来ることができたが、下りは階段で足下を気にしながら時間をかけて地上まで下った。1階まで降りると、そこで教会の入場券がある人と無い人が区別され、無い人はさっさと外へと出されていた。私は戸惑いながらもネットで入場券と音声ガイドを申し込んでいたので、大聖堂の中で椅子に座って音声ガイドの全解説をじっくりと聞いた。詳しい説明で勉強になったが、どれくらい記憶に残ったかは定かでない。



▲ テラス



▲ フライングバットレス



▲ ドゥオーモ礼拝所

5 ミラノ雑感

ミラノは3世紀末には西ローマ帝国の首都になり、その後ウィスコン家、スフォルツァ家がミラノ公となってルネサンスを迎えた。ダ・ヴィンチはスフォルツァ家の招きでフィレンツェから来て約20年ミラノに滞在し、14世紀から建設が始まった大聖堂ドゥオーモも約500年の建築期間の後19世紀に完成した。街の景観はルネサンスから富裕な自治都市として歩んだその歴史と文化を現代に伝えていて、「ファッションと芸術」を中心に欧州の真珠の一つとして輝いているようだった。日本はこの時代、戦国時代から鎖国へと突入し、産業革命や諸外国の発展に背を向けてきたわけで、明治維新ではそのギャップが衝撃的だったことだろう。ミラノの街は武家政治との格差の象徴のようで「建築に歴史は宿る」という証明であった。

【後編 ヴェネチアに続く】



▲ ドゥオーモ広場

晴天のもと！ 建築士会・建築士事務所協会 合同親睦ゴルフコンペ開催

総務・企画委員会 委員長 井上 竜治



▲スタート前の記念撮影

開催日：令和6年5月29日(水)

場 所：サンセットヒルズカントリークラブ松山

参加者：86人

令和6年5月29日水曜日、前日の豪雨が嘘のように
晴れ渡り、コンペ参加者たちにとって絶好のゴルフ日



▲建築士事務所協会烏谷会長組スタート前記念撮影

和、サンセットヒルズカントリークラブ松山で、青空
が広がる中、ゴルファーの熱い戦いが始まりました。
「言い訳のできない天気」で、全員が笑顔の奥にやる気
を秘めての、真剣勝負です。しかし、プレー中は、時
に笑い声やファーの叫び声が飛びかっていました。

ある参加者の珍プレー！瀬戸内のNo.9グリーン横



▲建築士会尾藤会長組スタート前記念撮影



▲池のある瀬戸内No.9グリーン

に池があり、いつも池に入るイメージで苦手意識があるようで、予想通り2打目が池に吸い込まれ、そこからチョロの連発です。同じ池にボールを3度も落としてしまうというハプニングが！それでも彼は笑顔を絶やさず、周囲を和ませていました（内心は冷や汗をかき、焦っていたと思う）。「昨日と違い、今日はこんなに晴れているのに、どうしてこんなに水難に見舞われるのだろうか？」と冗談を言うと、全員が大笑い。なんとか池を超えた時には、周囲から労いの拍手をもらっていました。

ゴルフは、スコアを競うだけでなく、年齢を問わず一日一緒にプレーすることで、絆を深め、楽しい思いを共有できる素敵なスポーツで、結果はともあれ、晴天のもと、友情を築き、笑い溢れる、楽しい一日となりました。ご参加の皆様、本当にありがとうございました。



▲スタート前、武知さん、三好さん、山下さん

そして、成績はというと、栄えある優勝者は、株式会社門屋組代表取締役門屋光彦さん、スコアは瀬戸内42、高輪39、グロス81、ハンディ12.0、ネット69でした。おめでとうございます。



▲優勝した門屋さん

【栄えある優勝者のコメント】

「今日のゴルフコンペに備えて、3年間愛用したゴルフギアに別れを告げて、パター以外すべてを総入れ替えした私…。ドライバーまったく曲がらず、アイアン良き打感、ウェッジ3本使い（50°・56°・60°）もハマり、最高のコンディションの中で優勝することができました。ラウンドメンバーにも心から感謝申し上げます。因みに、優勝・準優勝のワンツーフイニッシュは、フジパートナー会の建設部会の部会長と副部会長なのでした。」

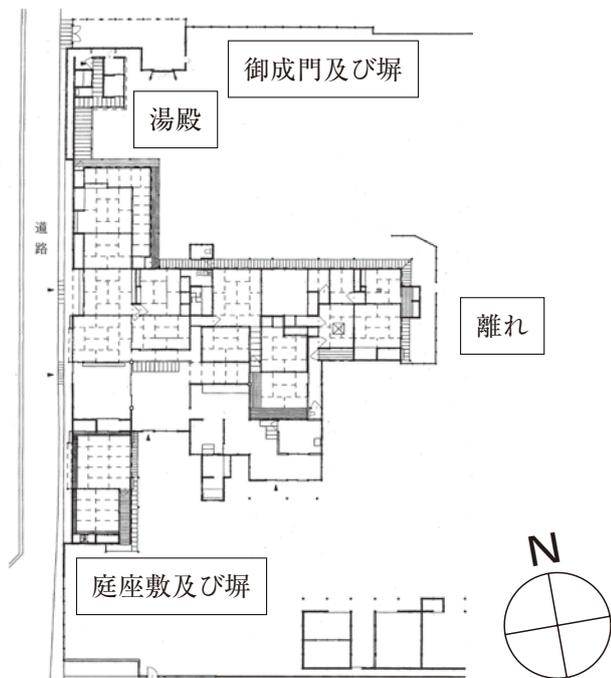
▲後列 永瀬さん、高橋さん、大岡さん、三原さん
前列 近藤さん、中岡さん、井上さん、猪木さん

愛媛の登録有形文化財 第10回 氷見住吉屋 (森家住宅主屋(他4件) 令和5年登録)

文化財・まちづくり委員会 副委員長 曾我部 準

【概要】

国道11号線の南側を小松の61番札所香園寺の前から東に向かって伸びる金毘羅街道。その金毘羅街道が氷見に入って南北に走る石鎚街道に突き当たるところがあります。そこを右に曲がったすぐ、そんなところに今回紹介する住吉屋があります。「住吉屋」は森家の屋号。江戸時代に財を成し、最盛期には2000石もの米を産した大地主で、藩から庄屋格を仰せつけられ名字帯刀を許された家柄です。有形文化財としては「森家住宅主屋」、「森家住宅庭座敷及び塀」、「森家住宅離れ」、「森家住宅湯殿」、「森家住宅御成門及び塀」として5つの棟が登録されています。



屋敷の外壁は漆喰とササラ子張りの腰板で仕上げられ、家の前には水路が走り、街道と屋敷・水路の集落形式が残る、ひときわ目を引く堂々とした古民家です。通りに面した間口の長い外観と、ほぼ当初の姿で維持された内部を合わせて非常に貴重な歴史遺産でもあります。

【1. 主屋】

街道に面した南北方向の中央に式台形式の玄関を配し、そこから東に棟を伸ばしたT字型の平面構成となっており24の部屋が連なっています。玄関の右にある土間から建物内部に入り左を見ると見世の間、玄関、次の間、上の間(座敷)と続き、次の間と上の間は庭に面して畳廊下が巡らされ、その外に板敷の縁側が設けられています。右を見ると12帖半と8帖の二間続きの庭座敷になっています。さらに奥へは中の間、仏間、奥の間と並び廊下で離れへとつながります。



襖や障子の間仕切りによって隔てられた部屋の暗さに対する工夫も見られ、天井まで障子を二段に構えた景色は小屋裏の大きな建物ならではのものです。平成28年の調査で発見された棟札によると、天保12年(1841年)の銘で「居宅七間半桁行十間半座敷迄」とあり、九代 森直次の若い頃にそれまでの屋敷を改築したとされています。

【2. 庭座敷及び塀】



私が訪れた日は旧暦の3月ということで地域の方々が雛飾りを展示されていました。



しかし建物の状態はよいとは言えず、柱の傾きも顕著で土葺の瓦もずれて落ちかかっているのをネットで留めているという状況で補修は一時を争う状況でした。

【3. 離れ】



主屋の廊下から奥には離れがあります。ただ離れとは言うものの実際には主屋と隣接しています。ここには炬を切った4帖半の茶室があり襖を隔てて8帖と6帖が二間続きとなっており、大人数の茶会にも対応できたようです。あるいはお付の控えの間として使われることもあったかもしれません。水屋も茶室に隣接して設けられています。

【4. 湯殿】



湯殿の入口脇には手水がありそこには水琴窟が設けられています。現在でも耳を澄ませば涼しげな音を聞くことができます。窓の格子も非常に細かい仕事がされておりその分、劣化も一方ならぬものがあります。文久8年(1864年)の旧暦3月1日に殿様がお成りになった日のことが森家文書「御用留帳」に記載があり、『厠にもあおざりしらすき 梧白木の刀掛を置き、さらしあさ 手拭掛けには晒麻の手拭をつるす。湯殿からの通路には残らず敷物を敷き、一度用いた草履はすぐに取り換える』ことなど、当時の様子が垣間見える記述が残されています。

【5. 御成門及び塀】



御成門は敷地の最も北側にあります。冒頭に述べたように、金毘羅街道と石鎚街道が交わる重要な結節点という地理的な見方をすると、敷地のこの位置に設けられたのも肯けます。森家でも近年まで使用せず、松山藩、西条藩、小松藩の各藩主がお成りの際にのみ使用されたといわれる「開かずの門」であったといわれています。

【最後に】

住吉屋の建物は昨年令和5年に登録有形文化財となり、運営には(一財)氷見古民家研究会の方々があたられています。法人化されたのはこの3月ですが、以前より氷見古民家研究会として長く活動されてきており、先日西条の戦争遺跡のまちあるきツアーなどを企画され、地下壕の図面など、素晴らしい資料も準備されています。聞けば、ほぼ会員有志の手弁当で活動されているとのこと。やはり資金繰りには苦労されておられるようです。今回縁あって保存改修ロードマップの提示をさせていただきました。皆さん手弁当で活動されてきたという中で費用を提示するのは非常に心苦しかったのですが、だからといって私も手弁当でというのには無理があります。ヘリテージマネージャーとして今後は古建築の保存にまつわる資金繰りについて見聞をひろげていかねばと考えさせられた案件でした。

CLTを利用した ドーム・ハウス見学会

教育・事業委員会 委員 水口 喜久美

開催日：令和6年6月27日(木)

見学場所：松山市梅津寺町

参加者：22人

梅津寺にありますCLTを利用したドーム・ハウスの見学会が、参加者22名にて開催されました。教育・事業委員長の大野さんより開催の挨拶から始まり、「株式会社 WOOD GUIDE代表取締役 弘島博正」さんより説明・案内がありました。

弘島さんは、愛媛県の主要な木造建築「愛媛県武道館、大三島美術館、ところミュージアム等」に携わり、木造建築についての知識と経験を豊かに積まれてこられて、CLTを利用したドーム・ハウスの建築等のアドバイスをされています。

15年前位、100φの間伐材を使い、これで15mのドームを組んだのが始まりで、従来の木造建築とは違い、大きな空間造りに魅力を感じたとか。

最近になり、そのフレームをCLTで出来るのではないかと思い、取り組んでおられます。



▲弘島さん説明を聞く参加者

CLTは思ったより断熱性能があり、夏は天窓と窓をあけておけば涼しく、冬は巻きストーブを少したけば暖かく過ごせます。音響もすごく良くて耳に優しい音を楽しめます。

しかしながら、問題点もあり、木造（CLT使用）3階建ての共同住宅を想定して、RC造と比較した場合、経費は少し割高になります。ただ建築事例が増えてく



▲五角形・六角形の集合体

ると、書面の簡素化、加工の効率の向上などにより日を置かず、解決されるものと考えられます。

ドーム・ハウスは、2種類の三角パネルで構成されており、そしてそれを組み合わせ六角形の集合体にし、頂点は五角形の集合体になります。つまり、サッカーボールの縫い目と同じ形になります。比較的わかりやすく組み立てられ、構造を理解すれば1日で全体の骨組みを完成することが可能です。但し、精度よく組み立てて行かなければならず、自重で下がって来る事もあり、最後の1枚のパネルは上手く合わなくなり、手加工が必要になるといいます。CLTパネル1枚で断熱材、仕上げを兼ねるので、効率的です。

化粧として見せる工夫もあり、コンパクトでありながらもドームが持つ特有の落ち着きがあり、球体に別の空間を加えることによって、多様な用途としての利用が広がります。

毎日の生活のリズムの中にエコロジーの快適さを味わう喜びをもたらしてくれる室内なのに室外にいるような解放感がある「ドーム・ハウス」。とても魅力を感じました。

とても有意義な時間をすごす事ができました。参加の皆さんも、それぞれ感じるものがあつたのではないかと思います。

参加いただいた皆様、ありがとうございました。

青年・女性建築士の集い 中四国ブロック広島大会

松山支部 近藤 岳志

開催日：令和6年6月8日(土)
場 所：アステールプラザ（広島市）
参加者：29人

令和6年6月8日土曜日、アステールプラザにて、「青年・女性建築士の集い 中四国ブロック広島大会」の地域実践活動報告会が開催されました。

近年、私生活の変化やコロナの影響等により、ブロック大会や、若手建築士(士)交流会など、士会活動として県外に行く機会がなかったのですが、今回は愛媛県代表として発表させて頂くため、久しぶりに参加させて頂きました。

今回、「建築士による防災講座」というテーマで発表させて頂きましたが、ご存じない方も多いかと思しますので、活動について少し説明させて頂きます。

私が建築士会に入会した2011年は、東日本大震災が起こり、建築士としての無力感を抱いておりました。そんな中、建築士が有資格者として地域貢献できることが無いかと有志で議論を重ね、木造住宅の耐震化の重要性を伝える活動を行うことになりました。



▲地域実践活動報告会発表の様子

当初は、役所の方にスライド（文字や写真）で地震の発生確率、地震の恐ろしさなど説明して頂いたのですが、参加者の興味を引き出すことができなかつたため、木造住宅の耐震化の重要性を伝えるためには、揺らして倒壊するような模型が良いのでは？という意見が出て、模型を購入することを検討しました。

しかし、うん十万円もかかり、士会の活動費ではとても購入できないことが分かり、手作りで模型を作ることになりました。図面を作成し、木材を加工、組み立てを、まるで部活動の様に、平日の夜に有志で行った結果、第一号の模型が完成しました。

早速、模型を使った防災講座を開催しましたが、参加者から「1台のみでは補強の有無の違いがよく分からない！」とご指摘を受け、2台同時に加振できる今のスタイルに改善しました。その模型を活用し、これまで約3120人の方に地震の恐ろしさや、木造住宅の耐震化の重要性を伝えることが出来ました。

愛媛県の住宅の耐震化率は、47都道府県中2008年では44位71.4%でしたが、2020年では29位84.5%まで改善し、この活動が直接影響したかは定かではありませんが、少なからずお役には立てたのではと自負しております。

また、この活動を通して日本建築学会に、技術報告集として士会の活動を全国の研究者に報告できたことも大きな成果となりました。今後も倒壊模型に関わるアンケート調査など、研究を進めてまいります。



▲質疑応答の様子

そんなお話しを7分間にまとめて、地域実践活動報告会で発表させて頂きました。その後、大懇親会の会場で、愛媛県が最優秀賞とスライドで大きく表示され、非常に驚きましたが、発表補助者の永井さんや、この活動にご協力頂いたみなさんのおかげです。この場をお借りいたしました。感謝申し上げます。

全国大会は鹿児島で開催されますが、九州ブロック代表が鹿児島県さんに決まりましたので、非常に厳しい戦いが予想されます。全国大会でも、悔いの残らないようプレゼンテーションしていきたいと思っております。引き続き、よろしくお願いいたします。



▲地域実践活動報告会の結果発表

令和6年度青年会員総会、 及び女性会員総会報告

〔青年会員総会 報告〕

青年委員会 副委員長 遠藤 彰騎

開催日：令和6年7月6日(土) 19:00～

場 所：牛若丸(松山市一番町1-9-7)

参加人数：尾藤会長、花岡担当副会長

武智青年委員長 他青年会員16名

永井女性委員長 他女性会員5名

令和6年度青年会員総会及び青年・女性会員合同懇親会が開催されました。今年度は、青年委員会と女性委員会が、それぞれ別会場で委員会を行ったのちに、居酒屋で合流し総会と懇親会を開催しました。

総会では、武智青年委員長から令和5年度事業報告・収支決算、令和6年度事業計画・収支予算の報告がありました。

今年度も尾藤会長、花岡副会長、青年委員会OBのみなさまにも参加いただきまして、ありがとうございました。また、懇親会ではお酒を飲みながら、深い意見交換、懇親ができたと思います。参加されたみなさま、ありがとうございました。

総会の内容を以下にご報告させていただきます。



▲武智青年委員長による報告

- (1) 令和5年度 青年委員会事業報告(抜粋)
- 6月 中四国ブロック青年女性建築士の集い 徳島大会参加
 - 9月 一級建築士設計製図実例見学会開催 後日Youtubeに動画をアップ
 - 11月 ソフトバレー大会開催(西条市)
 - 2月 とびだせ建築士 in東予高校【橋を作ろう】
- (2) 令和6年度 青年委員会事業予定(抜粋)
- 9月 一級建築士設計製図実例見学会 中四国ブロック若手建築志(士)交流会in愛媛
 - 11月 ソフトバレー大会(中予)
 - その他予定 技術講演会・とびだせ建築士

今年度も青年・女性委員会は会員の皆様が楽しむことができる活動をしていきますので、委員会活動にご参加

くださいますようお願い申し上げます。

最後になりましたが、日ごろより青年・女性委員会の活動にご理解・ご協力を頂いている皆様、誠にありがとうございます。本年度も引き続きよろしくようお願い申し上げます。



▲青年・女性合同懇親会の風景

〔女性会員総会 報告〕

女性委員会 委員長 永井 由起

開催日：令和6年7月6日(土) 18:00～

場 所：愛媛県民文化会館 別館 第13会議室

参加者：尾藤会長 女性会員9名

令和6年度第1回女性委員会の後、女性会員総会が開かれました。昨年度の事業報告と収支決算、今年度の行事予定と予算について語り、全会一致で承認いただきました。下記の通り、ご報告いたします。

- (1) 令和5年度 事業報告(抜粋)
- 9月 異業種勉強会 防災勉強会 大人7名、子供4名
 - 11月 四国中央市見学会 11名
 - 1月 新年会 8名
 - 3月 暮らし+(プラス)勉強会 大人9名、子供1名
- (2) 令和6年度 事業計画(抜粋)
- 8～9月頃 異業種勉強会
 - 9月21日～22日 中四国B若手建築志(士)交流会 (愛媛県開催)
 - 11月 中予見学会
 - 12月 暮らし+(プラス)勉強会
 - 1月 新年会

総会后、二番町の居酒屋「牛若丸」に移動し、青年委員会との合同懇親会に女性会員6名が参加しました。コロナ禍を抜け、青年・女性の垣根なく、さらなる会の発展へと活動の幅を広げていきたいと考えています。

最後になりましたが、日頃から委員会活動へのご理解、ご協力をありがとうございます。引き続きよろしくようお願い致します。

第33回全国女性建築士連絡協議会(東京)

未来へつなぐ「まち・ひと・建築」

～インクルーシブな社会を目指して～

女性委員会 委員長 永井 由起

開催日：令和6年7月14日(日)～15日(月・祝)

会場：日本建築学会 建築会館

参加者：現地参加3名、zoom参加1名

7月14～15日、東京の建築会館で開催された全国女性建築士連絡協議会に参加しました。



▲交流会での集合写真

初日の基調講演は、TOTO株式会社の真島香氏、株式会社日建設の畑島楓氏による公共トイレについてでした。誰もが安心して外出するために必要な公共トイレは本人だけでなく、ともに行動する人のためにも必要なものです。男女で分けられたトイレに異性の介助者や保護者が立ち入ることの難しさ、「多機能トイレ」（この表現は辞める方向にあるそうです）にひとまとめにされた、車椅子用トイレとオストメイトの問題点。ジェンダー「レス」ではなく、「オール」ジェンダーという概念。オフィスにおけるトイレの使い方（休憩スペースとしても…？）など、多くの気づきがありました。

被災地報告は今年の元日に発生した能登半島地震についてでした。建築士として応急危険度判定に参加する意思があっても、応急危険度判定士の資格更新手続きを忘れて失効、活動出来なかった人もいたと伺いました。地震が多い能登ゆえに「あれだけ準備してきたにも関わらず…」と何度もおっしゃっていました。また、災害時に有効なネットワーク、情報共有システムの構築、行政と有資格者との普段からの連携の必要性も感じました。南海トラフ巨大地震が想定される愛媛県も人ごとではあり

ません。学んだことを活かせる準備が、平常時にこそ必要なのだと思いました。

休憩時間中、全国からの参加者さんとの雑談の中で、わたしが「愛媛県から来ました」とお伝えすると、2日前の7月12日未明に発生した松山城の土砂崩れについて、お見舞いの言葉をたくさんの方から頂きました。交流会では各ブロック代表による「ワン・バイ・ワン」という活動報告がありますが、今年の中四国ブロックの担当が愛媛県でした。昨年度の活動報告に加え、お見舞いのお礼をお伝えしました。



▲「ワン・バイ・ワン」の様子

2日目の分科会は、A分科会の〈来年は山形県開催！「魅力ある和の空間ガイドブック」part6〉に参加しました。庄内地方には一度行ったことがあるものの、山形市には行ったことがないので、来年は是非参加して現地で建築と美味しいものを楽しみたいと思いました。芋煮は地域でお肉（牛or豚）も、おだし（醤油or味噌）も違うそうですよ！



▲夜の神楽坂を散策しました！

今年度から日本建築士会連合会会長になられた古谷誠章氏のお言葉に「女性の、というだけでなく、社会に一石を投じる視点を」とありました。女性の建築士が珍しくない時代になりました。今の環境を作ってくださった多くの先輩方に感謝しつつ、男女関係なく協力しあえるよりよい社会をつくるには、どのような活動が必要かを考える2日間になりました。

全建女の講演会、分科会は一部を除いて後日、連合会ホームページで公開されます。是非御覧ください。

新たな気づきの2日間

西予支部 下元 美恵

少し雨模様の曇り空の中、「全建女」参加してきました。今回の基調講演は、TOTOの真島氏や、日建設計の畑島氏による、トイレに関する講演でした。身障者トイレから多目的トイレの変遷、現状は、多目的になりすぎ、車いす使用者の方が利用できない現状があるということ、現在は機能分散の考えも必要、誰が使うかではなく、どう使うか。など大変気付きの多い楽しい講演でした。

2日目分科会「インテリアと暮らしの視点から考える室内防災対策」に参加。建物の耐震性の重要性は普段から意識していることですが、改めて「室内防災」の重要性を再確認いたしました。これからは、耐震診断の調査でも、室内防災の重要性を居住者の方に周知することも大事なな、と感じる興味深い分科会でした。

来年は山形開催です。仕事では気が付かない、いろいろな発見と学びがあります。ぜひ、来年の「全建女」も、皆様のご参加お待ちしております。

初めて参加して

四国中央支部 加地 彩子

今回、初めて全建女に参加しました。能登半島地震の被災地からの報告、トイレに関する基調講演、分科会では防災とインテリアを受講し、どれも予想していた内容とは違う角度でとても勉強になりました。こういう大会に参加することで普段は興味や関心がなかったことに触

れることができ、新たな考え方を発見することができました。防災とインテリアで学んだことはさっそくお客様に伝えていきます。初参加でしたが、有意義な2日間を過ごすことができよかったです。

全建女にzoomで参加

松山支部 大塚 美由紀

昨年に引き続きzoomで参加しました。準備する連合委員さん達は大変だと思いますが、家庭や仕事の事情で現地へ行けない人でも気軽に視聴できるzoomは大変ありがたいです。しかも後日配信もあるので接続が悪かったり、席を外して見逃した時も安心です。

今回のサブテーマ「インクルーシブな社会を目指して」。勉強不足な私は、「はて？インクルーシブとは何？」から始まりました。共生社会と言えば分かりやすいですが、性別、人種、障害の有無、性的嗜好等、同じ人間であっても様々な違いがあります。お互いの人権や尊厳を尊重しあうのは大事な事ですが、理解している「つもり」の多い事を改めて考えさせられる基調講演でした。

分科会では「魅力ある和の空間ガイドブック」から来年の全建女開催地の山形県の物件が詳細に紹介されました。また後半には山形県内の建築物や美味しいものをたっぷり紹介していただきましたが、あまりにも熱が入りすぎ時間が足りなくなる一幕も。

来年は是非とも山形へ行きたくなりました。もし、都合がつかなくてもzoomで参加出来るかな。



▲ A分科会の様子（zoom画面）

「建築士の日の行事」報告

西予支部 支部長 山内 真一

題名：「耐震リフォーム達人塾市ぐるみ勉強会」
 日時：令和6年7月3日(水) 13:30~16:30
 会場：西予市教育保険センター4階 大ホール
 講師：名古屋工業大学 高度防災工学研究センター
 客員教授 川端 寛文 氏
 テーマ：大工と建築士が共に学ぶ安価な耐震改修技術
 (入門編)

対象者：西予市内建築士及び建設業従事者

受講料：無料 (テキスト共)

協賛：西予市建設部建設課

西予支部では、西予市建設課からの紹介で、耐震リフォーム講習会を開催しました。



▲ 下元副支部長の開会挨拶

講師の川端氏は、国の「住宅耐震化の推進」として活動されているようで、全国を廻られているようです。



▲ 講座中の川端氏

『人は家族とともに住宅でくらし。巨大地震による住宅の倒壊は多くの人命と財産を奪うにとどまらず、被災者の人々から復興に向けたエネルギーをも奪うこととなります。地震災害の軽減において建物の耐震化がいか

に重要か、私達は過去の地震災害から痛いほど思い知らされてきました。にもかかわらず、住宅の耐震化は十分な速さで進んでいないのが、現状です。



▲ 受講状況

住宅の耐震化が進まない理由には、「危機感が足りない」「行政の補助が少ない」「改修費用が高額である」ことがあります。これらの各原因の解決に向けて主役となり取り組むことができる人、まさに建築士であり設計士です。建築士・設計士が合理的で安価な設計・施工技術を身に付け、行政や地域と連携して様々なしくみづくりに参画していければ、住宅の耐震化は飛躍的に進むであろう。』(達人塾・講習テキスト抜粋)



▲ 講習会状況

「何も対策していない住宅を残すことは、災害時に甚大な被害を生む可能性があり、重要なのは、対象住宅において出来るだけ多く、耐震対策をしておくことが、地震災害の軽減につながる。安価な工法でも、耐震化は出来るので、より多く出来るよう推進していくことが重要である。」と言ったような講習でした。

ちなみに、高知の黒川地区(旧黒川町)は、100%の達成率だそうです。

建築で繋ぐ道

西予支部 水野 正一

昭和36年、城川町で生を受け、温暖で緑豊かな地域で育ちました。現在は自分が通った小学校、中学校の校舎は解体され、城川小学校として生まれ変わりました。人口減少の波に吞まれて合併となった結果とはいえ、寂しいものがありますね！

高校は、隣町・野村に自転車通学。現在はトンネルが抜けて近くなりましたが、当時は野村城川間の『桜ヶ峠』の山越えでした。この通学が、後に社会人としてやっていける体力を育んだと思っています！ この野村高校の校舎も、建て替えがあり新校舎となってしまいました。

その後、大阪の大学に進学し、ここで初めて建築を専攻する事になります。が、建築士を目指して勉学に励むという立派な志はなく、居酒屋でアルバイトを始めると、どっぷりと浸かってしまいました！ 店長をはじめ従業員の皆さんや大阪ならではのお客さんとの触れ合いが楽しく、『この道もいいかも！』なんて……、4年間も続けたこととなります。この接客が、後に社会人としてやっていける対応力を身につけてくれたと思っています。

そして、八幡浜の建設会社に就職できる事となりましたが、大学を出たとはいえ、在学中に、建築に関して身に付けることが出来た、という自信は全くなく、現場管理という与えられた職務には程遠い、体力と対応力をフルに使った充実した時間を(?)過ごし、少しずつ認めてもらえるようになりました♪。現場長として任されても、思い通りにならないもどかしさ、責任の大きさ、現場対応技術の深さ等を感じ、永遠に満足できる建物を創造することはない！ だろうと思います。それでも、関与した建物の近くを通ると、懐かしく、多くの思い出が蘇り、心躍ります。一緒に仕事した上司・先輩・仲間(?!)、関わることのできた人達は、自分にとって永遠の宝物です！

平成8年4月、故郷・城川に帰省し、亡き父と最後の一年間だけ、一緒に仕事することが出来ました。長い間、迷惑をかけ続けてきた父に、また新たな不安を抱えさせてしまった経営初心者でしたが、僅かながら恩返しが出来たのかもしれない、と勝手な解釈をしています。『真っ

直ぐに生きてきた』、とはとても言えない道程でしたが、良き人に恵まれたことは財産です。祖父が起業した水野建築・大工の道から、父が違う形を付け足しして引き継ぎ、今、自分が自分なりの形で建築の道を繋いでできました。今後、後継する者が現れて、また形は違えど、ここまで繋がった建築の道が途切れないでほしいと祈念しています。



▲春日神社 祖父：拜殿(左)大正7年、父：本殿(右)昭和58年



▲魚成地域づくり活動センター 正一：平成5年

建築物は、時代の波に押し潰されて解体されることもあります。自分の生きていける時間より永く生きることが出来るはずですが、後世に『自分の生きた証』を残すことが出来る建築の道は誇れる仕事だと……思います！

あなたの原稿をお待ちしています。

公益社団法人として、異業種や全ての皆様から建築士会の枠を超えて原稿を広く募集して広く購買して頂くようにしています。是非、寄稿して頂きますようお願い致します。本年度は年6回発行となります。(尚、営業的色彩の濃いものにつきましては、掲載されない場合もありますので、ご了承ください。)

「いしづち」の次号の原稿締切日

令和6年 11月号 (161号) 令和6年9月26日(木)

※校正印刷の関係で締切延長の最終期限は一週間後の木曜日とします。

※1ページ写真込みで2150文字(25文字×43行×横2段)のWORD様式を事務局で用意していますのでご活用ください。

写真は1ページ当たり3枚程度まで題名を付けて添付してください。

また宜しければ投稿者の写真(免許写真程度の顔写真)を添付してください。

会員の皆様のご参加をお待ちしております。また記事等についてのご意見・ご感想もお寄せください。

(尚、投稿された原稿につきましては、要旨を変えない程度の若干の訂正等を加えることがあるかもしれませんので予めご了承ください。)

この誌面を通じて、会員の方々、そして一般の方々にも、建築についての対話等の輪が広がればと願っています。情報・広報委員会

読者の声欄

「いしづち」に関するご意見・ご提案などをお寄せください。お待ちしております。

「いしづち」編集委員会(士会事務局内)宛 FAX 089-948-0061

編集後記

7月10日、富士山の静岡側3ルートが開山を迎え、私はこの開山初日、富士宮ルートから富士山登頂に挑みました。この日の富士山は、多くのニュースでも取り上げられましたが、午後から風速10m~40mと風雨が強まり、荒れ模様の天気となり、10日だけで3名の方が遭難し亡くなりました。日本一標高の高い山だけあって、木々もなく隠れる場所もない、天候が荒れたときの厳しさは他の山の比ではありません。

風雨や寒さによる低体温症のほか、高山病、突然死のリスクが高いことも富士登山の特徴ですので、私は山小屋に避難しながら山頂を目指しました。山小屋のスタッフからは「台風より荒れてるから、無理はしないように」と言われ、当初の予定を大きく変更し、予約していた山小屋を変更するなどして、徐々に標高を上げていき、山小屋で2泊し、3日目に富士山山頂まで到達できました。

本当に大変でした。命の危険も感じました。この時ほど、唯一風雨を凌げる山小屋の存在を有難く思ったことはありません。

そこで私が宿泊した山小屋建築の特徴や凄さを書きたいと思います。まず、最大風速40mもあったのに室内は凄く静かなことに驚きでした。外壁の3方は軒まで大きな石積で囲われており、屋根も吹上に対応し、大きな木材で押さえられ、多くの石が載せられていました。これで、あの強風が凌げられるのかと思うと驚愕でした。

また、建物内部は、狭小で建物面積に限りがあるため、とても清潔で綺麗に整えられていました。建坪面積から宿泊人数を計算してみて、50人ぐらいだと思ったのですが、なんと130人とのこと、驚きでした。寝床のスペースに無駄がなく凄く考えられており、お一人様約1畳強、パーティションで区切られた空間となっております。また、換気設備が素晴らしく、換気をよくすることで、高山病の発症予防にも繋がるため、窓を開ける換気だけでなく、悪天候時にも効率的に換気の出来る強力な換気機器を導入していました。

最後に感動したのがバイオマス・トイレです。通常のトイレとは違い、自己完結・循環型のシステムが採用されており、無臭、無排水、無汚泥、無薬品の4つの「無」と、省エネルギー、省メンテナンスの2つの「省」とのことでした。その他にも、お食事美味しく宴会もでき快適でした。

今回の富士登山は、悪天候の大自然の驚異から、普段感じたことのない人を守るための人の英知を感じることができ、良い経験をしました。皆さんも富士山じゃなくて良いので、大自然を感じる旅をされてみたらどうでしょうか。

〈いしづち〉2024/9

令和6年9月発行

発行人 会長 尾藤淳一

発行所 公益社団法人 愛媛県建築士会

〒790-0002 松山市二番町四丁目1-5 愛媛県建築士会館2F

TEL(089)945-6100 FAX(089)948-0061 <http://www.ehime-shikai.com>

印刷所 アマノ印刷株式会社

情報・広報委員会・広報委員

委員長/大平 将司 副委員長/渡邊 道彦

編集委員/池川 佳代 河合 優志 西岡 亜有美 西森 勉